

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月23日

協議会名:	清須市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。))を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
清須市地域公共交通会議	オレンジルート 1便及び2～11便 西枇杷島会館～枇杷島駅～清須市役所～ヨシツヤ清洲店 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】	・バス乗り方教室を実施するにあたり、事業後に参加者アンケートを実施した。 ・次期地域公共交通計画策定に向けたニーズ把握のため、地域公共交通市民意見交換会を実施した。	A	・計画に基づき、事業が適切に実施された。	・コロナ禍の影響が解消され、利用者数はコロナ前の水準を全ルートで上回るまで回復した一方で、全ルートで目標値には達していないため、、新たなニーズを発掘し、利用者を獲得するための施策を実施する必要がある。
清須市地域公共交通会議	グリーンルート 1～11便 豊公橋北～枇杷島駅～須ヶ口駅～新清洲駅～ヨシツヤ清洲店 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】		A		
清須市地域公共交通会議	サクラルート 1～11便 西枇杷島会館～枇杷島駅～清須市役所～はるひ呼吸器病院 【車両減価償却費等国庫補助金交付対象】		A		
清須市地域公共交通会議	ブルールート 1便及び2～11便 ヨシツヤ清洲店～春日公民館～清洲駅～ヨシツヤ清洲店		A		
				・収支率【達成】(あしがるバス全体の収支率) 目標:8.9% 実績: 9.2% ・利用者数(年間)【未達成】 目標:19,400人 実績:14,780人(前年比100.4%、コロナ前比100.9%) ・利用者数(1便あたり)【未達成】 目標:4.9人 実績:3.7人 B 《分析》 ・収支率については、燃料油脂費を中心に運行経費が2.6%増加している一方で、利用促進事業の継続的な推進等により、運賃収入がそれを上回る7.9%の増加となり、目標達成となった。 ・利用者数については、概ね前年度並みの利用者数で推移し、前年度比100.4%と微増であった。コロナ禍前比でも100.9%と上回る実績が続いているが、新規利用者の獲得が課題である	・コロナ禍の影響が解消され、利用者数はコロナ前の水準を全ルートで上回るまで回復した一方で、全ルートで目標値には達していないため、、新たなニーズを発掘し、利用者を獲得するための施策を実施する必要がある。
				・収支率【達成】(あしがるバス全体の収支率) 目標:8.9% 実績: 9.2% ・利用者数(年間)【未達成】 目標:30,000人 実績:26,732人(前年比101.0%、コロナ前比110.6%) ・利用者数(1便あたり)【未達成】 目標:7.6人 実績:6.8人 B 《分析》 ・収支率については、燃料油脂費を中心に運行経費が2.6%増加している一方で、利用促進事業の継続的な推進等により、運賃収入がそれを上回る7.9%の増加となり、目標達成となった。 ・利用者数については、バス停により差があるものの、合計では前年度比で101.0%とわずかに増加した。コロナ前比では110.6%と上回る水準を維持しているが、新規利用者の獲得が課題である。	
				・収支率【達成】(あしがるバス全体の収支率) 目標:8.9% 実績:9.2% ・利用者数(年間)【未達成】 目標:32,300人 実績:27,499人(前年比106.8%、コロナ前比105.7%) ・利用者数(1便あたり)【未達成】 目標:8.2人 実績:7.0人 B 《分析》 ・収支率については、燃料油脂費を中心に運行経費が2.6%増加している一方で、利用促進事業の継続的な推進等により、運賃収入がそれを上回る7.9%の増加となり、目標達成となった。 ・前年度にはコロナ禍前の水準近くまで回復した状況であったが、令和6年度は前年度比106.8%と、コロナ禍前を明確に上回る状況となった。ヨシツヤなどルートの主要な目的地で主に利用者が増加している。	
				・収支率【達成】(あしがるバス全体の収支率) 目標:8.9% 実績:9.2% ・利用者数(年間)【未達成】 目標:19,400人 実績:18,167人(前年比123.1%、コロナ前比117.2%) ・利用者数(1便あたり)【未達成】 目標:4.9人 実績:4.2人 B 《分析》 ・収支率については、燃料油脂費を中心に運行経費が2.6%増加している一方で、利用促進事業の継続的な推進等により、運賃収入がそれを上回る7.9%の増加となり、目標達成となった。 ・前年度はコロナ禍前の水準に満たなかったが、令和6年度は前年度比で123.1%と顕著に増加した。またコロナ禍前比でも117.2%と大幅に上回り、ダイヤ・ルート改正や利用促進事業などにより一定の新規利用者があると考えられる。	

事業実施と地域公共交通計画別紙との関連について

資料2-2

令和6年12月23日

協議会名：	清須市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	清須市では、高齢者や主婦層等の移動制約者の交通手段を確保し、市内の移動利便性を高めるため、平成18年10月にコミュニティバスの運行を開始した。 平成21年3月には、清須市地域公共交通戦略(以下、「戦略」という。)を策定し、平成27年3月には、戦略に基づき進めてきた公共交通の充実に向けた歩みをさらに推し進めていくために、清須市地域公共交通網形成計画(以下、「網形成計画」という。)を策定した。 令和2年3月には、網形成計画の計画期間満了に伴い、現状の課題を踏まえつつ、まちづくりとの連携を図りながら、これまでの取組により形成してきた公共交通ネットワークを今後も持続的なものとするため、「清須市地域公共交通計画(以下、「公共交通計画」という。)」を策定した。 また、公共交通計画に基づき、実際の運行を確保するため、清須市地域公共交通計画別紙を策定している。 公共交通計画においては、清須市の交通将来像である「誰もが移動しやすいまち清須」の実現に向けた基本方針を掲げている。 基本方針Ⅰ 既設の鉄道網を生かした地域公共交通ネットワークの形成 基本方針Ⅱ 地域公共交通を利用しやすい環境整備の推進 基本方針Ⅲ 地域公共交通事業推進のための関係者の連携 今後も、アンケート調査等を実施し現状課題の把握・改善に努めるとともに、清須市地域公共交通計画及び別紙に基づき、公共交通の充実に向けた事業を推進していく。